

コウノトリ湿地ネットニュースレター

# パタパタ

vol.

38

豊岡市城崎町今津1362  
0796-20-8560  
toshima8560@iris.eonet.ne.jp  
<http://wac-s.net>



2018年2月5日 円山川堀川橋下流に集う9羽のコウノトリ。毎年雪が降った朝、ここでこの光景が見られる。独身  
個体のお見合い？ 庄境ペアも加わっているのは仲人？

## 1\_\_今年の期待と不安

2\_\_戸島湿地でのコウノトリの繁殖(2017年の記録その1)

7\_\_鹿よけフェンス

8\_\_ハチゴロウの戸島湿地だより・編集後記

## 今年の期待と不安

コウノトリ湿地ネット 代表 佐竹 節夫

繁殖の季節になりました。豊岡では3月23日現在で5つの巣で産卵が確認されており、さらに、河谷、下鉢山での新ペア2組を含めて7つの巣で繁殖の兆しがあります。去年は11の巣から25羽が巣立ちするという過去最大数でしたが、今年はさらに数が増えるかも。

豊岡だけではありません。2年目の鳴門ではヒナが育っており、雲南では新しいメスによって産卵間近、京丹後でも繁殖の兆しがあり、他にも繁殖の可能性があるかもしれません。

あちこちで繁殖行動が展開されていることは、もちろんうれしい限りです。何せ、個体数は約120羽にもなり、飛来先も都道府県全てになったのですから、野生復帰が進んでいることに間違いはありません。しかも、数の増加や範囲の拡大は、おそらく来年も再来年も続いていくでしょう。

では、個体数や飛来先は増えさえすれば万々歳かと言うと、必ずしも喜んでばかりではないのではないかと。豊岡を見てみると、2けたの営巣があり、ペアだけではなくて独身者もいて、常時60羽前後が暮らしています。まさに過去最高です。すでにこの誌上でも言ってきたように、豊岡の環境キャパシティーは限界です。市内での生息に過密地や過疎地があるので、人工巣塔の適正配置とかなわばりの適正化などが言われてきましたが、未だ成果は出ていません。というより、もともと(勢いのある)野生動物の繁殖行動を人間がコントロールすることは極めて困難なのでしょう。思惑どおりには行きません。コウノトリは自身の生態に基づき、それぞれがそのままに行動していきます。なわばり争奪、種内闘争、近親婚、餌不足 etc. 餌環境さえ良くすれば、仲良く暮らすだろう、なんてことはないでしょう。

そうであれば、まずは原則に立ち返って、彼らコウノトリの生態を改めて学び、寄り添って行動することだと思います。その一助にと、別項でハチゴロウの戸島湿地における去年の繁殖状況をデータ化してまとめました。この繁殖データに、巣立った幼鳥の行動を加え、さらに他のペア、個体の行動を加えてみると、彼らの行動パターンがかなり分かってくるのかなと思います。ぜひ、参考にいただき、ご意見、ご質問をお寄せください。(近日中に、過去5年間の繁殖データをまとめたグラフ等をハチゴロウの戸島湿地のHPに載せます)

方向としては、豊岡市外に生息地をどんどん拡大させることしかありません。その場合、前号で述べたように個体群と捉えられる地域では一つの単位として取り組む必要があります。問題は、行政区域をどう乗り越えるかとコウノトリを迎える各地に施策の統一ガイドラインがないことです。日本全体を対象とした具体的な野生復帰プランがないことです。したがって、全国の中にはコウノトリの飛来を好ましく思っていない自治体も存在します。まちづくりの方向が「人と自然の共生」ではないまちは、当然、迷惑に思われるでしょう。誰が羅針盤をつくり、誰が調整し、どのように連携していくのでしょうか。そろそろ、野生復帰を成就するための新しいシステムが必要です。

それができるまで、いや、できた後も、カギを握るのは市民のネットワークと行動であることは間違いありません。



## 戸島湿地でのコウノトリの繁殖(2017年の記録その1) コウノトリ湿地ネット



2017年の戸島ペアの繁殖データが揃いました。長文になるため、今号と次号の2回に分けて掲載いたします。1回目は全体の状況と、交尾から巣作りと最初の伏せまで。次号で抱卵、孵化・育雛、巣立ちまでをお届けします。

### はじめに

#### ■ 対象繁殖個体(親鳥)

メス・J0294(2001年、コウノトリの郷公園で孵化・巣立ち、2005年、コウノトリの郷公園で放鳥)  
オス・J0391(2004年、コウノトリの郷公園で孵化・巣立ち、2007年、山本で放鳥)。

#### ■ これまでの状況

・2008年春、赤石周辺において J0294、J0384、J0389、J0391 がペア形成に向けた相手を選ぶ行動を行う。結果、J0294とJ0391、J0384とJ0389の2組のペアが成立し、前者が戸島巣塔を、後者が赤石巣塔を選択してそれぞれ繁殖行動に入った。  
・J0294、J0391 ペアは、戸島巣塔においてペア形成直後の2008年3月産卵、4月ヒナ孵化、6月巣立ちを成し遂げると、以後、昨年(2017年)まで連続で繁殖に成功し、計21羽のヒナを巣立ちさせた。ヒナはいずれも巣立ち後は親のテリトリー外に飛去しているが、今日までに6羽の孫と2羽のひ孫が各地で生存していることが確認されており、繁殖の最長継続とともに世代もつながっている稀有な例である。

なお、2018年度も1月末時点で交尾を確認しているので、11年連続の繁殖が見込まれている。

#### ■ 観察方法

親鳥の行動データ収集は、これまでと同様に巣塔から約150m離れた本湿地管理棟の2階に設置した固定モニターテレビで、繁殖期の日の出から日没まで(目視不可能となるまで)常時撮影し、後に映像をチェックして行動項目ごとに整理・集計した。

1)観察期間 2017年1月1日(日)～6月21日(火)172日

※終了日は、ヒナの2羽目が巣立ちを行った日とした。

2)観察時間 134,721分

※日が差して明るくなる早朝から夕方暗くなって見えなくなるまで、目視が可能な限り観察した。赤外線カメラではないため夜間の行動は把握できていない。

### 1. 交尾

コウノトリは交尾期間が長く、繁殖に直結しない交尾も行いことで知られている。特に当該ペアは、前年の秋には初交尾行動(マウンティング)する。2017年度も同様で、秋から冬の間は2羽そろって巣に戻るタイミングが合った時にマウンティングするのが通例だ。しかも、ほとんどの場合が帰巣後3分以内に行っている(森薫氏談)。これは、非繁殖期での交尾行動が、他の個体が巣塔近くに侵入したときに、あたかも当てつけの如く行っているように見えることと何らかの関係があるかもしれない(ペアの親和性を表すしぐさ?)。

2月に入ると、8日の4回を皮切りにほぼ毎日、かつ複数回交尾し、繁殖期に入ったことを示している。また、2017年度も産卵最終日をもって交尾終了となった。

1)交尾期間

1月2日～3月20日

2)交尾回数

合計 155 回(182 回) ※( )内は前年数値。以下、同じ。

※1 日最高は2月26日の10回(13回)であった。ちなみに、過去最多は2014年5月1日と3日の17回(第2クラッチ)。

3)交尾回数の状況

別表1に、交尾回数を日にち毎にグラフで示し、推定産卵日を重ねた。

結果、全体の流れとしては徐々に回数が増していき、初卵直前で山の頂点となり、最終卵に向けて下降しており、例年通りの曲線となった。

回数は、交尾が頻繁となる2月8日～初卵前日(3月15日)の37日間で128回、初卵(3月16日)から最終卵(3月20日)の5日間では18回であり、繁殖期におけるコウノトリの交尾回数の高さを如実に表している。

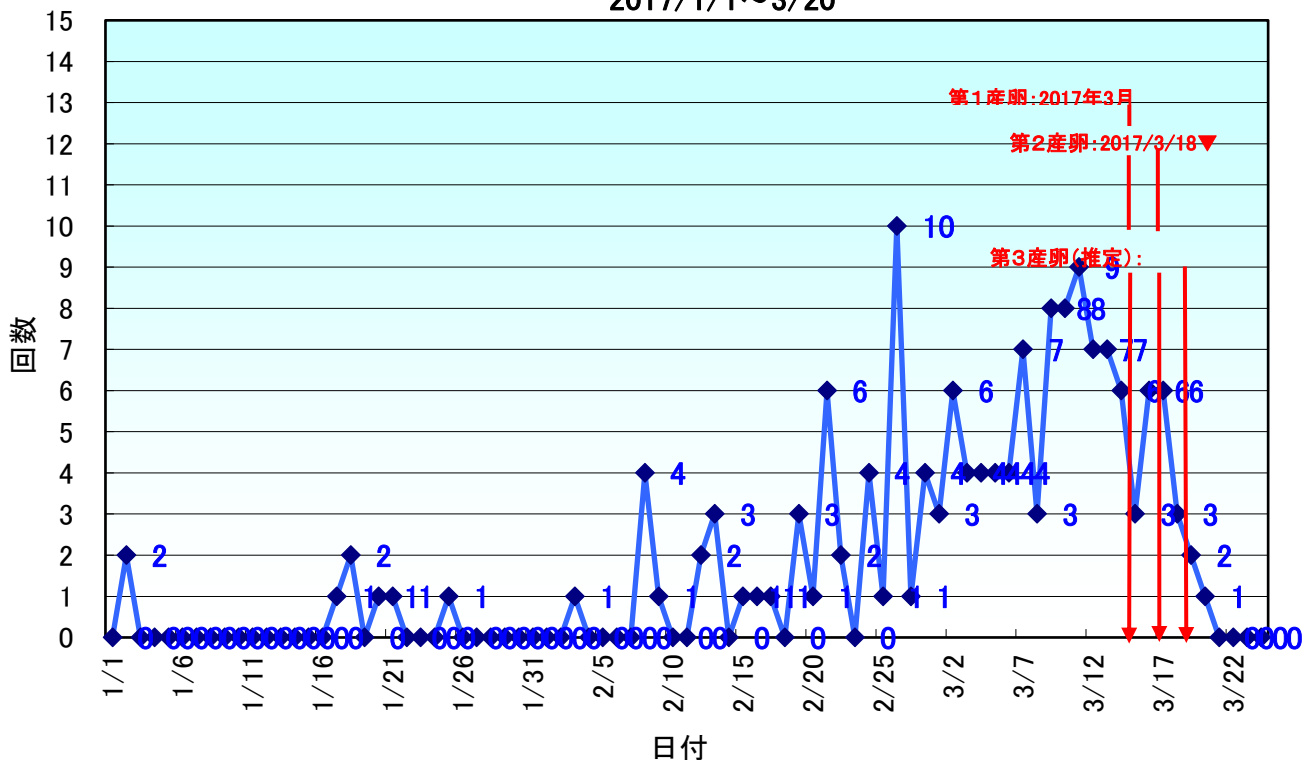
※1月2日～2月7日についても交尾しているが、この時期は繁殖に結びつかないものとしてここでは除外した。

目視では交尾は午前中が多いと感じていたので、今年度は午前、午後の割合についても調べてみた。

結果、別表1-1のとおり、午前が91回で58.7%、午後が64回で41.3%だった。やはり午前中が6割弱と多かったが、極端というほどではない。

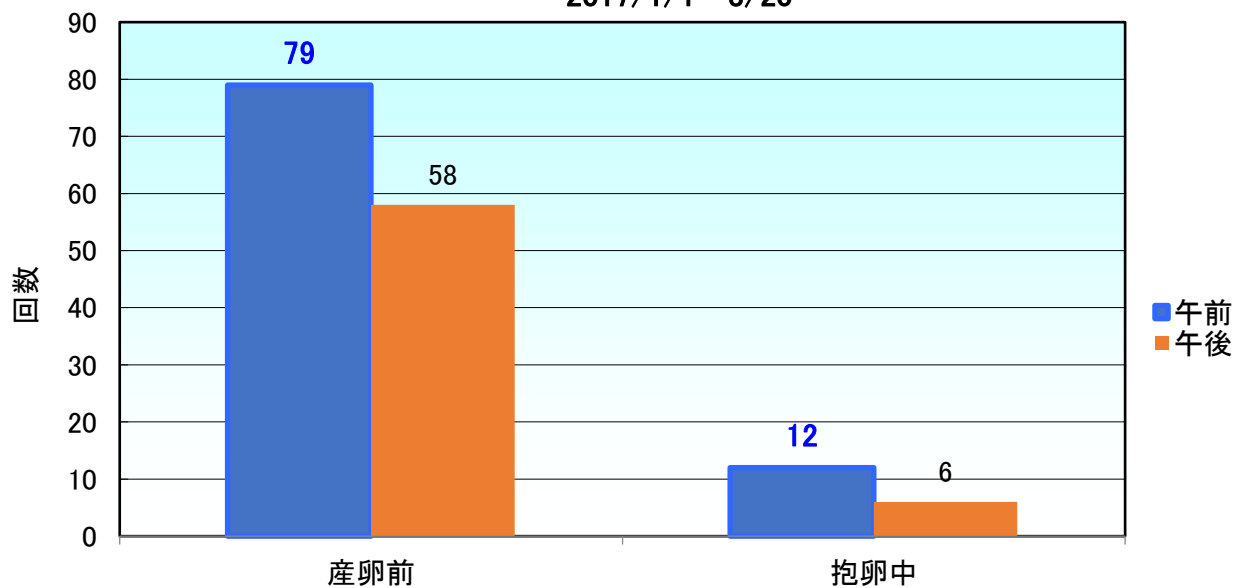
戸島ペア(J0391,J0294)交尾回数  
2017/1/1～3/20

別表 1



戸島ペア(J0391,J0294)初卵産卵前後の交尾回数  
2017/1/1~3/20

別表1-1



## 2. 巣づくりと最初の伏せ

コウノトリの夫婦は、雌雄が共同して巣をつくり、卵を抱き、子を育てる。しかし、過去3年の観察の結果、巣づくりは雄が主体的に行っていた。果たして2017年度も同様か、その点にも注視して観察を行った。

巣づくりは、大小の枯枝で巣の形を整え、その中心部に枯れ草やワラなどを敷き詰めて行う。巣材は、初めに山裾から木の小枝を運んで外周を整えながら巣の下部を造るが、小枝の搬入頻度は、前年巣材の残存状況によって異なってくる。つまり、巣が壊れずに残っておれば、新たな巣材の搬入は不要で補強程度にとどめるだけでよい。

巣の中心部は、畑や湿地内から草や藁を運んで整えていく。巣材を運ぶ行動は、巣を完成させ産卵した後も、巣の補修やフン等で汚れた草の取り換えとして頻繁に行われる。

巣材運びの回数と雌雄割合は、別表2、2-1、3のとおりである。

巣材運びの期間と回数

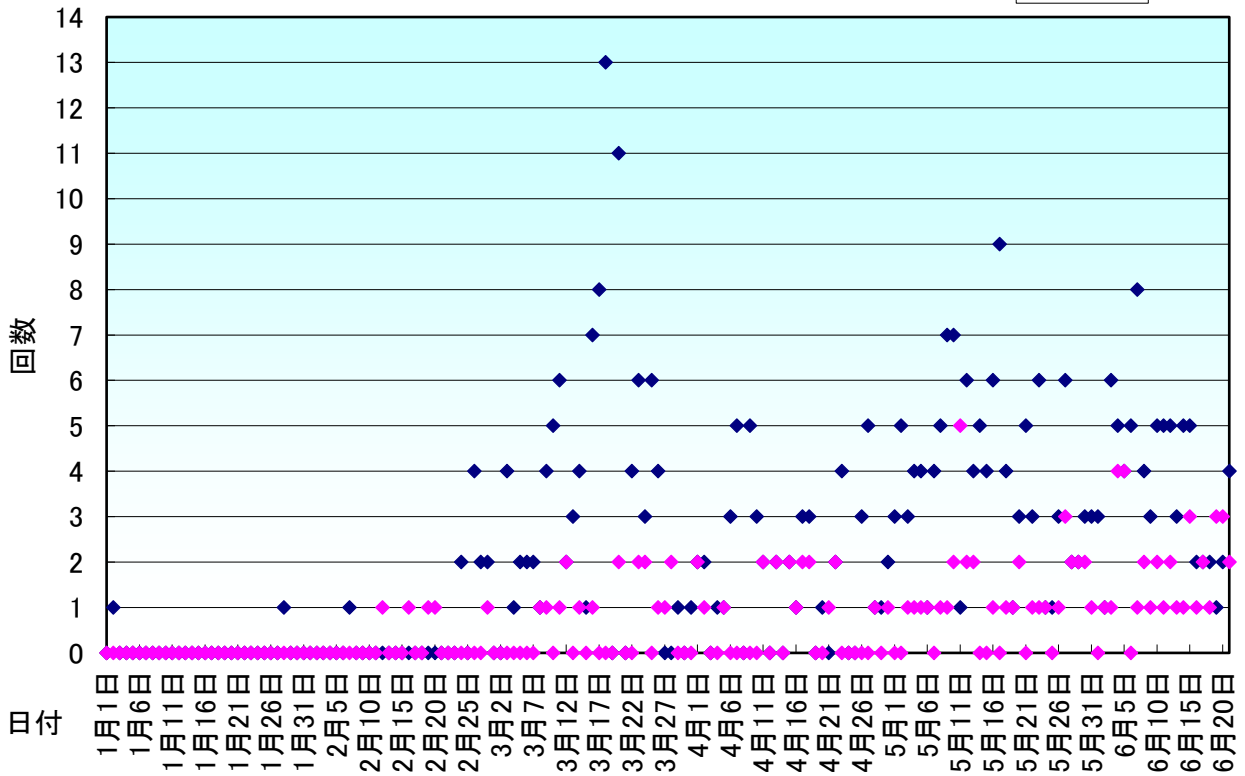
1月1日～6月21日 483回(604回)

初卵産卵前・1/1～3/15は61回(214回)、初卵後・3/16～6/21は422回(390回)

巣材運びは2017年度もオスの比率が極めて高く、76%を占めた。2014年94%、2015年83%、2016年84%なので、例年より少し下がっているとはいえ、巣材の搬入、巣づくりはやはりオスが基本的に担っていると言えよう。特に産卵までの状況が顕著で、巣材運び61回(214回)のうち、オスは50回(194回)で82%を占めた。ベッドづくりは、完全に夫の役目なのである。

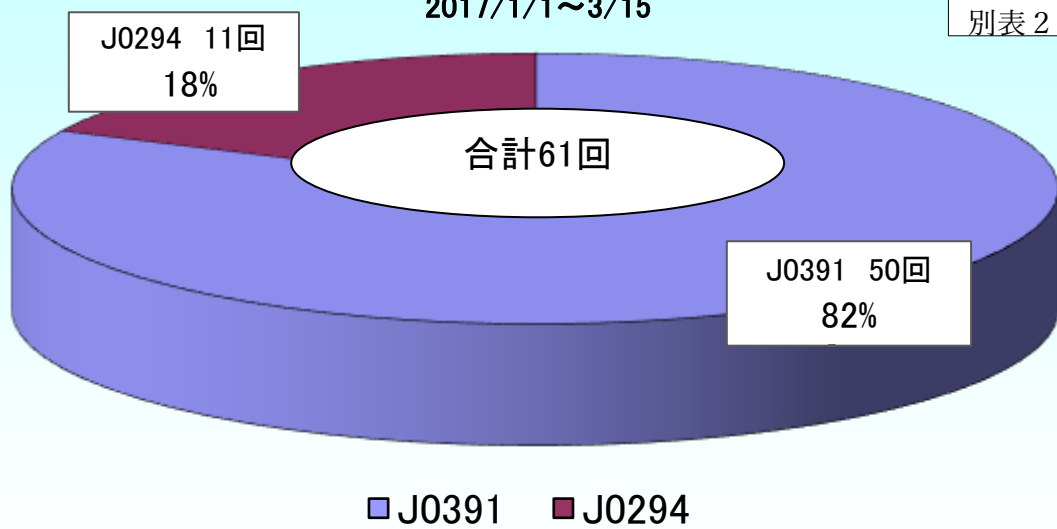
別表 2

戸島ペア (J0391, J0294) 巣材運び回数  
2017/1/1~6/21



戸島ペア (J0391, J0294) 産卵前巣材運び回数割合  
2017/1/1~3/15

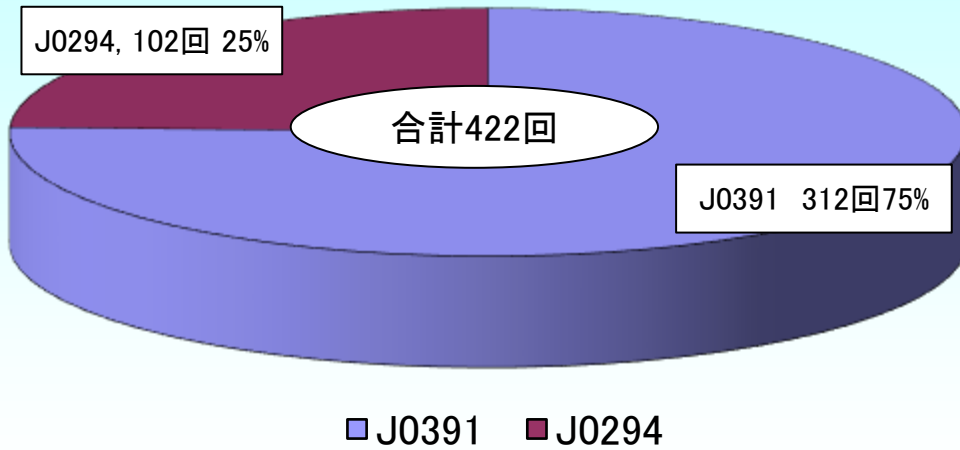
別表 2 - 1





別表3

戸島ペア(J0391,J0294)産卵後巣材運び回数割合  
2017/3/16~6/21



ボケの花

池上 晃



ボケ(木瓜)はバラ科ボケ属の落葉低木類で、この地方では3月中旬から4月にかけて開花する。

わが家では、庭に大きな株と挿し木で育てた植木鉢があるが、耐寒性や耐暑性に優れ、毎年枝いっぱい花をつける。幹、枝に鋭いトゲがあり、株状に生育する。

ボケは中国が原産のようで、花は2〜3cmの大きさで5枚の花びらを丸く壺のように重ねた独特の咲き方をする。しかし、なんとかわいそうな名前を付けられたものか。秋にはジャガイモ大の実をつけることから「木瓜」(もけ)と呼ばれたのが「ボケ」に転化したらしい。「何でやねん!」とつっこみを入れたいが、今年も、季節を間違えうことなく花を咲かせている。

(画・文 池上晃)



## 鹿よけフェンス コウノトリ湿地ネット 会員 宮村さち子



私の住んでいるところは豊岡市内でも、家の周りを山に囲まれた山間農村部だ。田んぼや畑も山に囲まれ、近年鹿が頻繁に出没する。周りの田んぼや畑がどんどんフェンスで囲まれるようになり、それでも鹿の被害は増え続けた結果、部落全体をフェンスで囲みこむ事態になった。山すそをフェンスで囲んで山から鹿が侵入できないようにしたのだ。

とうとう、人間が囲いの中に入ることになってしまった。近隣の様子もあまり変わらない。

フェンスが増えると、それに伴って、コウノトリの事故も増えてきた。夢中になってえさを探している彼らが、足を引っ掛けたり、翼を傷めたりするのである。

フェンスには3種類ある。金属柵、電気柵、ナイロンネットだ。山すそや田んぼに長い距離を設置されるのは金属柵が多い。電気柵は田んぼを囲み、苗が植えられ刈り取られるまで設置されることが多い。ナイロンネットは安価で、設置も簡単のため、個人の畑などを囲んでいることが多い。どれもコウノトリにとって脅威なのは変わらないが、ナイロンフェンスに足を取られることが多くなっている。

鹿の害に追われている人間だが、人間の近くで暮らすコウノトリたちも被害を受けることになった。里山が荒廃し、野生のシカ、イノシシなどが増えてくることが自然の安定した環境を壊し、ひいてはコウノトリにとっての環境も悪化させている。



畑を覆うナイロンフェンス



左：山すそに張られた金属柵 中央：左の柵の前方で採餌中のコウノトリ  
右：田んぼをすっかり囲った金属柵



左：田んぼに張巡らせた電気柵（電線は付けられていない）  
中央：電線が張ってある電気柵 右：電気柵の前で採餌するコウノトリたち





## ハチゴロウの戸島湿地便り（1月～3月編）

### 戸島湿地管理棟 森 薫



#### ■ 3月6日に初卵を確認しました。

戸島ペアは、昨年11月12日から他のコウノトリが飛来すると必ずと言っていいほど交尾行動をしていました。今年に入り1月17日より本格的に交尾を重ね、3月6日に初卵、12日に4卵を確認しました。4月10日までには孵化すると思われ、11年目の繁殖となります。



高病原性鳥インフルエンザにより、3月8日よりコウノトリの郷公園の西公開

ケージが封鎖されたためか、戸島ペアは湿地で餌を探していることが多くなっています。ちょうど淡水域を耕運するために干し上げしているところで、水路や仕切り堤防沿いで餌を探す姿が観察できるため、来館者の皆さんに喜んでいただいています。



#### ■ 国際ソプロチミスト但馬より、フィールドスコープ2基を寄贈していただきました。



国際ソプロチミストは、人権と女性の地位向上のための奉仕活動を行っている世界的組織です。兵庫県北部を拠点とされている「国際ソプロチミスト但馬」は「出来ることから始めよう」を合言葉に地域に根ざした奉仕活動を続けておられます。当会は設立当時から応援していただき、今年度に寄贈していただいたフィールドスコープは戸島湿地に設置して、子どもたちや来館者の皆様にコウノトリや野鳥の観察に使わせていただくとともに、『コウノトリ一斉調査』などの際にも、足環の確認が出来るととてもありがたいです。感謝して大切に使用させていただきます。

#### ■ グリーン基金(一般社団法人日本損害保険代理業協会)と兵庫県損害保険代理業協会より寄付金をいただきました。



グリーン基金は(一社)団日本損害保険代理業協会が社会貢献のための寄付活動で、当会は平成24年から寄付をしていただいています。

兵庫県損害保険代理業協会は同年より、指定管理をしているハチゴロウの戸島湿地での年2回の作業に加え寄付金までいただいています。毎年7月の第1土曜日と11月の最後の土曜日に作業に来てくださいます。皆さんとは、すっかり顔なじみとなり近々のコウノトリの話題や兵庫県南部のコウノトリの飛来情報などお話しがはずみです。戸島湿地に作業に来て子室に恵まれたという方が3名おられとても喜んでおられ、私たちまで幸せな気分になります。

いただきました寄付金は、コウノトリや自然環境保全のために有効に大切に使用させていただきます。

#### ■ 近畿大学附属豊岡中学校『こうのとり同好会』の皆さんが活動発表に来てくれました。

近畿大学附属豊岡中学校では、コウノトリについて学び、学ぶだけでなく「コウノトリのために自分たちができることをして、コウノトリ野生復帰に貢献したい」と同好会を立ち上げ活動を進めておられます。

昨年度も学習会を2回と作業に2回、来てくださいました。年度末になり一年の活動の様子をまとめて、戸島湿地での生きもの調査や外来種駆除、作業の成果や今後の課題について私たちにプレゼンテーションをしてくださり、各自で湿地やラムサール条約についても学習され、資料を作っておられて感心しました。プレゼンテーションのあとの反省会では、皆さん自分の考えをもっておられて内容もさながら文法・話し方もチェックされ、喧々譁々と議論されていてチームワークとパワーを感じました。佐竹代表から、活動を進める中でどこかに拠点をもち事前調査をして、仮説をたてて行動してみるといいですねとアドバイスがありました。

皆さんは、高校生になっても活動をしたいと夢をもたれています。私たちも応援させてくださいね。



### ■ 東京農工大学環境教育研究室の皆さんがスタディツアーに来られました。

このツアーは、研究室の小松淳一さんと、地域おこし協力隊の永瀬さんがコーディネートされ、3日間豊岡市内をまわってコウノトリ環境教育の課題と可能性について議論してワークショップをされました。コーディネート役の永瀬さんが皆さんの学びを活かし、取り組みが広がるようにと願いを込めてまとめをされました。コーディネーター養成講座やコウノトリ大使プロジェクトなどの提案をしていただき、私たちも実現に向けてできることから始めていきたいと思いました。



### ■ 飛来先から、コウノトリを観察するマナーについて相談が寄せられています。

コウノトリの郷公園ではコウノトリ飛来時のパンフレットにより、150メートル離れて観察しましょうと呼びかけられています。越前市ではコウノトリ見守り隊が結成され、鳴門市では400メートル離れての観察を呼びかけられています。

戸島湿地がオープンしてすぐに、城崎小学校の皆さんとコウノトリにどれくらい近づくと逃げるか、どのくらいの声で逃げるかを実験したことがあります。結果は120メートルまで近づいたところで逃げました。大声を出したときには150メートルでも逃げませんでしたが、それ以上近づくと飛び立ってしまいました。よって、コウノトリの郷公園が提唱されていることは私たちの実験の結果とほぼ同じということになります。

戸島湿地では、繁殖期には作業以外は立ち入り禁止として、管理棟内または観察棟や進入路からの観察をお願いしています。繁殖期に巣塔に接近されたり、近隣の私有地に入られるなどの際には、お声かけして説明をお願いをするのですが、お互いに気持ちのいいものではありません。それでも、現場でのお願いがとても大切だと思っています。

マナーに対する考え方は人それぞれで、一方的な意見には戸惑うこともあります。コウノリ仲間の体験や、戸島ペアと10年間接してきて感じることは、コウノリも他の生きものと同じように危害を与えるものは直感的に分かるということです。和歌山でJ0057を観察されていた皆さんの和気藹々とした様子はコウノリにも伝わっているようです。餌を採っている時は車から出ない、採餌中は写真も一枚しか撮らないなど自分のルールを決めておられる方もあります。コウノリの個性に合わせた観察や自分との約束を守ることはお手本にしたいです。

私は、戸島ペアとの信頼関係を大切にしています。J0391♂は少し怖がりようで、J0294♀の方が私を認めてくれているように感じています。私とJ0391の距離は、約5メートル、J0294とは4メートルです。ゲートの開け閉めに湿地に入ると、距離を保ちながらゆっくりと離れていきます。私もコウノリの歩幅に合わせてゆっくり歩きます。そんなときの私は、いつになく特別の優しい顔?になっているのだと思います。皆さんもぜひ、とびっきりの優しい顔でコウノリを見つめてください。コウノリの餌場づくりと同様に、コウノリが安心して暮らせるように人間社会もよくしていきたいですね。

(誤解のないように、給餌はしていません)

## 最近のコウノリたち

左：河谷巣塔で争う  
J0054・0099・0111  
右：下鉢山巣塔の  
J0054・0087を攻撃する  
J0381



2018年3月30日  
伊豆巣塔にて、巣塔のペアを攻撃するJ0014。追い払われ、巣塔下部の台に乗り、なぜか一周する。ここがJ0014の縄張り？



## コウノトリ湿地ネット賛助会員名簿(新規入会)



(京丹後市) 室野 直之助

(2018年1月1日～3月31日)

ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。



## 編集後記



『豊岡では、コウノトリ野生復帰の取り組みを「官・民・学」の連携で進めている』とよく耳にする。それぞれが担うところは？と考えていたところ、読売新聞『時代の証言者』の記事のなかで、村木厚子さんが印象に残っている言葉として『0を1にするのはNPOの力。理論武装して1を10にするのは学者の力。ペイする範囲内で10を50にするのは企業の手。誰もが利用できるように50を100にするのが行政の力だ』と話されていた。それぞれが力を発揮してこそ日本が元気になれると。コウノトリ野生復帰の取り組みの鍵もここにあるのではないかと思う。『0から1へ』の精神をモットーに、今年度も頑張りたいと思う。  
(森)

春が来て桜も満開、水仙などいろんな花が一度に咲いてきている。今年は桜の開花が早い。お花見の予定があるけど、さっさと散ってしまうのではと心配ですが、真っ青な空を飛ぶコウノトリの背景に桜が咲き誇っているのがとてもきれいです。  
(宮村)

### アンケートのお願い



地域おこし協力隊の永瀬です。コウノトリの保護と、町づくりに関して活動をしています。今回コウノトリについてのアンケートを実施することにしました。ご協力をお願いします。左のQRコードからアクセスできます。

